

ナシ「幸水」の果実腐敗症総合防除技術

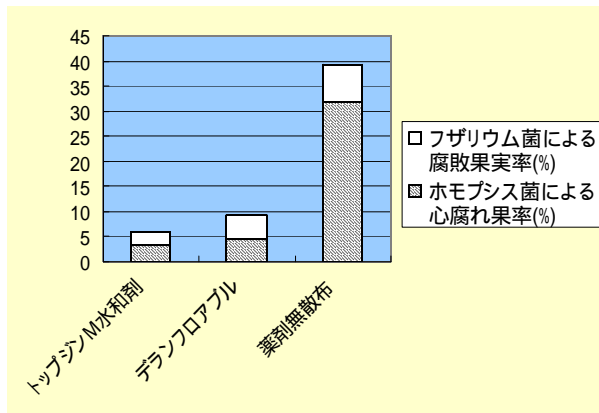
本県のナシ主要品種である「幸水」に、収穫時の外観からは判別できず、出荷後急速に果実が「心腐れ」となる果実腐敗症状が発生することがあり、産地の信頼を損なうため大きな問題になっています。この障害を軽減するには、開花期から開花40日後までに胴枯病菌に有効な薬剤を散布し、摘果は下向きないし横向きの果実を残すことが耕種的対策として有効です。また、休眠期のせん定時を中心に、胴枯病の枝病斑を切除又は削り取って薬剤を塗布するなど、総合的な防除対策を講じることが重要です。



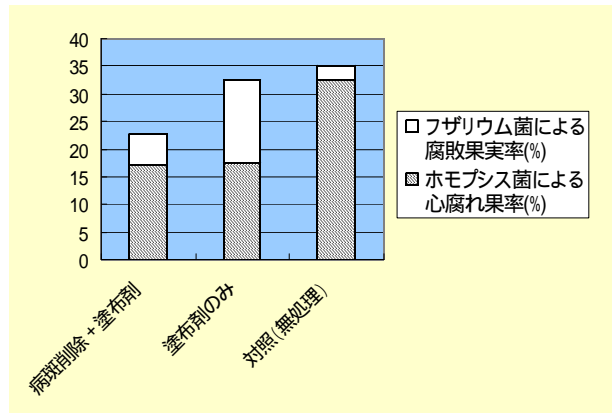
果実腐敗（心腐れ）症状
収穫・出荷後、流通過程で腐敗が進行



ナシ胴枯病の枝病斑
果実に感染する胴枯病菌の重要な伝染源



果実腐敗症に有効な薬剤
トップジンM水和剤、テラフロアブル等の散布が有効



病斑削除等と果実腐敗の発生
塗布剤にはトップジンMペーストを使用

ナシ「幸水」の果実腐敗症総合防除体系

<p>生育全期間 (休眠期中心)</p> <p>胴枯病の病患部を切除又は削除し、せん定切り口とともに塗布殺菌剤を塗る。</p>	<p>4月下旬 ～5月下旬 (開花～満開40日)</p> <p>薬剤を散布する。 (テラフロアブル、トップジンM水和剤、ダイホルトフロアブル又はパルノックスフロアブル)</p>	<p>5月～ (摘果時)</p> <p>幼果の向きが上向きでなく、横～斜め下向きのものを残す。</p>	<p>8月 (収穫時)</p> <p>収穫果の保存温度は、なるべく低く管理する。発病の発見に努め速やかに処分する。</p>
---	--	---	---